

# 市民 100 人大ワークショップでの市長講演の概要

日時：平成27年12月12日（土） 13：30～14：00

場所：千葉総合保健医療センター5階 大会議室

---

＊資料「これからの千葉市について考えてみませんか？」に基づき講演しました。

## （概要）

### 【3ページ～5ページ】

- ・行政の施策は画一的。同じ税金を預かっているのにそれぞれの地域で違う対応をするのは不公平になってしまうので、平均的にやらざるを得ない。
- ・公園の緑一つとっても、自然豊かな公園が良いので樹木は生い茂っていたほうが良い、剪定しないほうが良い、という意見がある。一方で、生い茂ることによって見通しが悪くなり防犯上危ない、もしくは落ち葉が多いので剪定したほうが良い、という意見もある。
- ・それぞれが行政に要望し、行政が決めるべきだというケースが多い。
- ・個人の意見なので行政は判断できない。判断したとしても、満たされなかった人は、行政が悪いということになってしまう。
- ・地域の中でこの公園をどうするべきかを議論し、決めた結論を行政にぶつけていただくことが基本であると思う。
- ・決して楽しい話ではない。地域で議論すると近所の顔の見える人同士なので意見が対立した場合、バツが悪いこともある。個人個人で行政にぶつけるのは簡単だが、それでは本当の意味での市民の公園にはなり得ない。
- ・例えば、木を切らないとするのであれば、防犯上の問題は、緑を残したい側の人達で手分けして防犯パトロールをし、落ち葉についても清掃活動をするなど、緑を残したい人たちが、剪定したい人たちの理由を解消するような活動の可能性が出てくる。
- ・行政は、専門的見地から市民に出来ないことを支援する。

### 【6ページ】

- ・これまでの行政は、政策を実現するとき、その裏側の選択肢や、いくらかかったのかということを言わなかった。
- ・子どもの医療費について、今までは小3までが自己負担300円であったが、保護者の方から自己負担0円にしてくれとの要望があった。
- ・小3までの自己負担を0円にすると、当時、3億5千万円のお金がかかる旨を伝えたと、市民の方はそんなににかかるとは思わなかったという反応であった。
- ・その上で、自己負担300円を維持して、同じ3億5千万円投入すると、小6まで拡大できる旨を示したところ、保護者の皆さんは、小3まで0円よりも、小6まで300円の方がいいとほとんどの方

が答えた。

- ・すると今度は、市民のほうから、自己負担300円をもう少し上げると、小6よりももっと伸ばせるということか、との声が出てきた。
- ・当時、3億5千万円に3千万円上乘せして、3億8千万円投入すると自己負担500円で中3まで拡充できる旨を伝えたところ、300円を0円にしてくれと言っていた保護者の皆さんは、300円を500円にして中3まで伸ばしてくれとの意見に変わった。
- ・これをアンケートにして大規模に意見を伺ったところ、0円の方はほとんどいなかった。お子さんの年齢によって、中3・500円論と小6・300円論に分かれた。
- ・結局、折衷案でもう少しお金をかけて、小3までは300円、小4から中3までは500円とした。
- ・税金は増税しない限り限られているので、何かを新たに実現するには何かを捨てる必要がある。
- ・行政はそれぞれの分野ごとに、どういう選択肢があって、それがいくらかかって、このような考え方でこうしたい、という対話を重ねていかないといけない。

#### 【8ページ】

- ・まちづくりアンケートでは、「あなたは身近な地域の課題について考えることはありますか」という問いに、多くの方々は何らかの形で関心があるという結果であった。
- ・この「ある」と答えた方々が、まちづくりの中で参画し主体的に動けるフィールドを行政が作っていないかなければならない。

#### 【9ページ】

- ・平成20年に「千葉市市民参加及び協働に関する条例」を制定した。
- ・取り組み例として、千葉市は、ごみの1/3削減を最重要課題として取り組んできた。その中で、生ごみ減量研究会と組み、市民に対して各地で生ごみ減量の講習や、簡単に作れる段ボールコンポストの作り方講習などをしていただいた。
- ・このように市民から市民へという形もある。公務員は人件費が高いし、スピードもない。行政は行政でしか出来ないことを担い、市民の皆さんがより市民に身近な形で教えられるものについては、提案いただく中で、ボランティアではなく委託をする形で、共に取り組んでいかなければならない。
- ・しかし、これも市がやりたいこと、市が目的とすることについて一緒にやっていく、ということなので、市民主体となるには更に次のステップにいかねばいけないと思っている。

#### 【11ページ～13ページ】

- ・高齢化で特に課題なのは、よく2025年問題と言われているが、団塊世代の方々が75歳以上になるときに、本当の意味で支えあい助けあいの地域づくりが出来ているかが問われている。
- ・市民と行政それぞれ何ができるのかということを考えていかなければならないと思う。
- ・みんなの力で支えあうまち、まちづくりを支える力を作っていくということで、市民の力を、市民のまちへの関心を高めることを最重要課題の一つとしている。

### 【15ページ】

- ・まちを支えている町内自治会に若い人がなかなか入らないという課題がある。これを何とかしたいと思う一方で、時代の変化に則った新しいまちづくりへの参加の仕組みも作っていかねばならない。
- ・ちばレポは、スマートフォンでまちの不具合箇所の写真を撮ってレポートしていただくことで、不具合箇所が一覧でわかり、対応の経過をプッシュ型で出していける。24時間365日、まちづくりに市民が入っていける仕掛けを全国で率先して実施している。
- ・これまで日本が持ってきた良き地域の繋がりを維持しながらも、新しい時代の中でやらなければならないことも併せてやっていくことが、行政に求められている。

### 【16ページ】

- ・市民シンクタンク事業は、千葉市が将来的に考えなければならない課題に対して、職員やコンサルタントにお願いするだけではなく、市民の方に議論していただくもの。
- ・モデル事業で、自転車のまちづくりについて議論していただいた。96万市民の中には、自転車で商売されている方や、自転車のボランティアをしている方、毎日自転車に乗っている方もいる。自転車に対して強い関心のある方がたくさんいる。市民グループ同士で議論し、自転車のまちづくりを進めていく中で何をしていくべきかの政策提言をしていただいた。こういうことを積極的にやっていきたいと考えている。

### 【17ページ】

- ・オープンデータは、行政が持っている膨大なデータを積極的に公開すること。
- ・例えば美浜区で、犯罪発生件数と地域の防犯ウォーキング登録者数にどういう関係性があるか調べた結果、防犯ウォーキングの登録者数が多い地域は、犯罪発生件数が少ないことがわかった。
- ・こういうデータを行政が積極的に公開してくことで、自分たちの活動を考えるきっかけになる。

### 【質疑等】

**質問** 自分のまちの資産価値を上げるために、まちづくりがあるのだと思う。自分の住んでいるまちや千葉市が、いかに資産価値を上げるために協力できるかという視点も考えていただきたい。

**回答** 自分たちの将来や、子どもたちに良い形で残したいという思いは自然なこと。外部から自分たちのまちが評価されるのは、まちづくりの目的の一つとして重要なことであると思う。

**質問** ①行政サービスの中には、電子データで申請できるものもあるが、紙ベースで持ち込まないといけないものもある。統一してもらいたい。

②場所ごとの犯罪・事故発生件数について、曜日や時間まで含めたマトリックスがあるといい。

**回答** ①そのような話を区にぶつけていただきたい。一括で申し込める窓口を作っていくことが現場主導であると考えている。

②行政の役割は生データを公開すること。その生データを分析して加工するのは地域でやっていただく形が一番良いと思う。

**意見** オープンデータや皆の議論を残していくためにも、公文書館を作っていただきたい。政令市で公文書館があるのは9市で、ないのは11市であるが、安く作る方法はいくらでもあるので、ぜひ作っていただきたい。

**奥村先生所感**

- ・市民のための市長であると感じる。子ども医療費助成の話も、他の選択肢も示して決めていくことは素晴らしい。
- ・市民の皆さん自身が考えていく新しいまちづくりは、すぐには実現できないかもしれないが、大変素晴らしいと思う。

**市長**

- ・民主主義が成熟してくれば、市民のほうから、これは優先順位が低いのでやめて代わりにこちらに回すべきだという議論が出て来なければならないと思う。何かをやめなければお金は出てこない。あれもやってください、これもやってくださいでは、結局将来の人に泣いてくださいという選択肢以外はない。